

# 本 会 会 告

## 日本放射光学会第7回評議員会議事録

日 時：1989年11月18日（土） 13：30～16：00

場 所：食糧会館（東京都千代田区）

出席者：石井武比古，太田 俊明，菊田 惺志，  
北村 英男，小早川 久，合志 陽一，  
佐々木泰三（会長），下村 理（行事  
幹事），田中健一郎，谷口 雅樹（庶務  
幹事），千川 純一，富增多喜夫，  
富家 和雄，藤井 保彦（渉外幹事），  
前沢 秀樹，松井 純爾，松下 正，  
菅 滋正（会計幹事），宮原 恒昱  
（編集幹事），西野三和子（事務局）

### 議事：

1. 標記会議の議長に石井評議員を選出した。
2. 第6回評議員会議事録（案）を承認した。
3. 谷口庶務幹事から，前回評議員会以降に提出された入会申込書，退会届について報告があった。本評議員会はそれを回覧し，正会員13名，賛助会員1社の入会，および正会員1名の退会を承認した。本評議員会現在，正会員は698名，賛助会員は70社となった。
4. 田中選挙担当委員から，時期会長・評議員選挙について，候補者推薦の集計および本選挙開票の経緯に関する報告があり，開票結果の詳細が回覧資料として提出された。本評議員会は，上記報告に基いて，次期会長・評議員を以下の通り承認した。

次期会長 千川 純一

次期評議員 雨宮 慶幸，石川 哲也，  
植木 龍夫，大隅 一政，春日 俊夫，  
高良 和武，佐藤 繁，菅 滋正，

床次 正安，原田 仁平，宮原 恒昱，  
村田 隆紀，村田 好正，山川 達也，  
渡部 力

5. 菊田将来計画特別委員会委員長から，同委員会構成メンバー，および第1回委員会の討議内容，大型計画に対する起草委員会《委員：安藤 正海，上坪 宏道，菊田 惺志，佐々木泰三，千川 純一，藤井 保彦》の設置等に関する報告があった。また，今後，中型計画についても検討を開始すると共に，同委員会の活動の経緯を会誌，年会等を通して会員に報告して行く旨の説明があった。
6. 菅会計幹事から，1989年度上半期決算報告書の提出があり，1989年4月1日～9月30日迄の収支に関する報告があった。また，外国人会員の会費納入について，クレジットカードのシステムを導入した旨の報告があり，上記決算報告と共にこれを承認した。  
会費未納者については，定款第16条（会員が正当な理由なくして会費を3カ年以上滞納した時，本会の名誉を傷つけた時，あるいは本会の目的に反する行為を行った時は，評議員会の議決を経て退会させられる。）適用期限前に会費支払いの勧告をし，1991年4月の評議員会で審議する事とした。
7. 下村行事幹事から，第2回講習会の収支に関する報告があり，第3回年会，および放射光シンポジウム「EXAFSでどこまで分かるか」開催要項について説明があった。本評議員会はこれを承認した。
8. 宮原編集幹事から，会誌の編集方針として，

加速器関係の記事の充実、将来計画特別委員会の活動報告、および各施設建設計画の概要の紹介、読者からの投稿等の掲載について説明があった。また、会員に対する主要メッセージを装丁上の工夫で目立たせる事等の補足があった。将来計画の記事に対する批判および議論の取り扱いについては、種々の議論があったが、会員からのレスポンスの場として開かれた会誌の役割を確認し、今後、編集委員会で更に検討して行く事とした。

9. 藤井渉外幹事から、日本学術会議および特許庁の学術団体指定の登録申請に関する報告があった。また、刊行物の交換等を通して内外の施設と情報を交換する旨の説明があった。

本会主催第2回講習会の加速器科学研究奨励会との共催、原研・理研共催の国際シンポジウム「大型放射光施設計画と先端科学技術」への後援の報告があり、これを承認した。

10. 宮原評議員から、評議員会の定足数について、委任状による出席の検討の提案があった。

(細則第5条「評議員会は現有評議員の過半数の出席をもって成立する」)時機尚早等の議論があったが、この件に関しては、今後、幹事会で検討して行く事とした。

11. 次回評議員会は、2月10日(土)13:30~16:30とした。

### 第3回年会

1990年4月26日(木)、27日(金)、28日(土)大阪科学技術センターで開催。参加登録者315名。

1件の特別講演と16件の一般講演。ポスターセッションは、軟X線関係40件、硬X線関係40件、装置開発関係39件(放射光施設関係14件)。

27日の将来計画シンポジウムは、本学会将来計画特別委員会の企画。大型計画に対する学会の見解、科技庁計画、高工研計画の現状報告、および

中型計画についてのパネル討論。

懇親会は、27日同センター食堂にて開催。出席者118名。詳細は本誌前掲の年会報告参照。

### 第8回編集委員会

1990年3月3日、東大物性研で開催。第3巻第1号の評価、第2号および第2号以降の内容について検討。また、親しみの持てる会誌とするための装幀上の工夫等を検討。

### 第4回起草委員会(将来計画特別委員会)

1990年3月10日、高工研PFで開催。「次世代大型放射光施設計画に関する調査報告書(案)」の検討。

### 第3回将来計画特別委員会

1990年4月7日、東大工学部で開催。「次世代大型放射光施設計画に関する調査報告書(案)」および中型計画について検討。

### 第12回定例幹事会

1990年4月14日、東大物性研で開催。1989年度の活動の総括および1990年度の活動方針について検討。

### 第8回評議員会

1990年4月26日、大阪科学技術センターで開催。主な審議・承認事項は次の通り。

- 1) 正会員45名、賛助会員2社の入会および正会員16名の退会を承認した。(4月26日現在、正会員数727名、賛助会員数72社)
- 2) 1989年度事業報告および収支決算を承認した。

3) 「次世代大型放射光施設計画に関する調査報告書(案)」の大綱を承認。

### 第3回総会

1990年4月26日、大阪科学技術センターで開催。議案および議事の結果は次の通り。

- 1) 1989年度事業報告および収支決算に関する件。(後掲のとおり承認)
- 2) 1990年度学会組織に関する件。(後掲のとおり承認)
- 3) 1990年度事業計画および収支予算に関する件。(後掲のとおり承認)

### 第9回評議員会

1990年4月26日、大阪科学技術センターで開催。主な審議・承認事項は次の通り。

- 1) 1990年度、幹事を承認した。
- 2) 1990年度の主な事業計画および収支予算案を承認した。
- 3) 1991年度会長、評議員選挙担当委員に石川哲也評議員を承認した。

## 1989年度収支計算書

自 1989年4月1日  
至 1990年3月31日

(単位 円)

#### 1. 収入の部

科 目	金 額	細 目	金 額
1. 会員会費収入	4,037,000	正会員会費収入 学生会員会費収入	3,957,000 80,000
2. 賛助会員会費収入	3,050,000		
3. 購読会員会費収入	304,250		
4. 学会誌広告料収入	5,178,219		
5. 学会誌販売収入	320,000		
5. 受取利息	2,268		
収 入 の 部 合 計			12,891,737

#### 2. 支出の部

科 目	金 額	細 目	金 額
1. 学会誌出版費	7,567,978	会誌印刷費 会誌編集費 原稿料 発送手数料・郵送料	5,615,556 436,869 564,000 951,553
2. 名簿管理費	1,517,109		
3. 事務経費	2,558,364	事務管理費 賃借料 事務用品費 消耗品費 水道光熱費 給料手当 印刷費 税理士報酬・顧問料 振込手数料・運賃 FAX使用料	263,591 16,300 154,799 462,338 4,075 37,840 877,359 560,000 77,380 104,682
4. 通信費	1,515,072		
5. 会議費	1,172,392	会場費 旅費交通費	224,672 947,720
支 出 の 部 合 計			14,330,915

#### 3. 収支計算の部

当期収支差損

1,439,178

## 1989年度資産負債明細

1990年3月31日

(単位 円)

## 1. 資産の部

科 目	金 額	細 目	目
1. 現金及び貯金	4,426,780	手持現金残高	86,745
		郵便振替残高	3,829,860
		都民銀行普通預金残高	510,175
2. 会費未収入金	387,000	正会員会費未収残高	372,000
		賛助会員会費未収残高	0
		購読会員会費未収残高	15,000
3. 広告費未収入金	1,029,840		
4. 学会誌・会員名簿 在庫高	430,899	学会誌Vol. 3 No. 1 (162冊)	229,357
		会員名簿 (220冊)	201,542
5. 電話加入権	70,000		
6. 什器備品	282,220	会長用ファクシミリ	282,220
資 産 の 部 合 計			6,626,739

## 2. 負債の部

科 目	金 額	細 目	目
1. 行事特別勘定	664,670	講習会特別勘定受入金	448,344
		年会特別勘定受入金	343,126
		シンポジウム特別勘定受入金	△126,800
2. 会費前受金	5,844,000	正会員会費	2,894,000
		賛助会員会費	2,950,000
負 債 の 部 合 計			6,508,670

## 3. 剰余金の部

科 目	金 額	細 目	目
1. 前期繰越剰余金	1,557,247		
2. 当期収支差損	1,439,178		
剰 余 金 の 部 合 計			118,069

## 剰余金処分計算書

前期繰越剰余金	1,557,247円
当期収支差損	1,439,178円
次期繰越剰余金	118,069円

## 1990年度役員

1990年度役員は、所定の手続きを経て、つぎの通り決定。

## 会長

千川 純一 (高工研)

## 評議員

雨宮 慶幸 (高工研)

石川 哲也 (東大工)

植木 龍夫 (理研)

大隅 一政 (高工研)

大柳 宏之 (電総研)

春日 俊夫 (広大理)

上坪 宏道 (理研)

北村 英男 (高工研)

木村 克美 (分子研)

国府田隆夫 (東大理)

高良 和武 (加速器奨励会)

小早川 久 (高工研)

合志 陽一 (東大理)  
 佐藤 繁 (東北大理)  
 菅 滋正 (阪大基礎工)  
 田中健一郎 (高工研)  
 谷口 雅樹 (広大理)  
 床次 正安 (東大理)  
 富增多喜夫 (電総研)  
 早川 和延 (北大触媒センター)  
 原田 仁平 (名大工)  
 前沢 秀樹 (高工研)  
 松井 純爾 (日本電気)  
 松下 正 (高工研)  
 宮原 恒昱 (高工研)  
 村田 隆紀 (京都教育大)  
 村田 好正 (東大物性研)  
 安岡 則武 (姫路工大)  
 山川 達也 (高工研)  
 渡部 力 (国際基督教大)

#### 1990年度幹事・委員会委員

1990年度幹事・委員会委員は所定の手続きを経て、つぎの通り決定。

庶務幹事 大隅 一政 (高工研)  
 会計幹事 平井 康晴 (日立基礎研)  
 編集幹事 大嶋 建一 (筑波大物理工)  
 行事幹事 水木純一郎 (日本電気基礎研)  
 渉外幹事 柿崎 明人 (東大物性研)

#### 編集委員会

大沢 哲 (高工研)  
 ◎大嶋 建一 (筑波大物理工)  
 尾嶋 正治 (NTT電応研)  
 桂 共太郎 (高工研)  
 神谷 信夫 (理研)  
 北野 保行 (広大理)  
 後藤 俊治 (富士通開発)  
 佐々木茂美 (原研)

正畠 宏祐 (分子研)  
 杉山 卓 (電総研)  
 鈴木 茂雄 (三洋電機筑波)  
 鈴木 章二 (東北大理)  
 鈴木 芳生 (日立基礎研)  
 関 一彦 (広大理)  
 浜中 俊明 (阪大基礎工)  
 本堂 武夫 (北大工)  
 宮原 恒昱 (高工研)  
 村田 隆紀 (京都教育大)  
 山根 隆 (名大工)

#### 行事委員会

伊藤 健二 (高工研)  
 磯山 悟朗 (分子研)  
 和泉 義信 (山形大)  
 古宮 聡 (富士通厚木)  
 高橋 隆 (東北大理)  
 田村剛三郎 (広大理)  
 前沢 秀樹 (高工研)  
 前山 智 (NTT電応研)  
 ◎水木純一郎 (日本電気基礎研)  
 八木 健彦 (東大物性研)

#### 渉外委員会

○雨宮 慶幸 (高工研)  
 ◎柿崎 明人 (東大物性研)  
 小林 正典 (高工研)  
 大門 寛 (阪大基礎工)  
 藤井 保彦 (筑波大物質工)

#### 将来計画特別委員会

安藤 正海 (高工研)  
 石井武比古 (東大物性研)  
 遠藤 裕久 (京大理)  
 太田 俊明 (広大理)  
 勝部 幸輝 (阪大蛋白研)  
 上坪 宏道 (理研)

- ◎菊田 惺志(東大工)  
 木村 克美(分子研)  
 木村 嘉孝(高工研)  
 佐々木泰三(高工研名誉教授)  
 佐藤 繁(東北大理)  
 下村 理(無機材研)  
 菅 滋正(阪大基礎工)  
 千川 純一(高工研)  
 冨増多喜夫(電総研)  
 林田 敏明(三洋電機研究開発)  
 原田 仁平(名大工)  
 藤井 保彦(筑波大物質工)  
 松井 純爾(日本電気基礎研)  
 松下 正(高工研)  
 宮原 恒昱(高工研)  
 森 肇(九大理)  
 大嶋 建一(編集幹事)  
 大隅 一政(庶務幹事)  
 柿崎 明人(渉外幹事)

#### 「次世代大型放射光施設計画に関する調査報告書」

##### 起草委員会

- 安藤 正海(高工研)  
 上坪 宏道(理研)  
 菊田 惺志(東大工)  
 佐々木泰三(高工研名誉教授)  
 千川 純一(高工研)  
 藤井 保彦(筑波大物質工)

◎: 委員長      ○副委員長

#### 1990年度事業計画

##### 編集委員会

##### 1990年度編集方針

本年度の編集方針としては、宮原前委員長のものを引き継ぐと共に、親しみの持てる会誌とするために次のことを新たに組み込む予定である。

1. 記事にアクセントを持たせるためにカラー刷りを積極的に取り入れる。黒+カラーの2色刷りとして、経費の増加は20~30万程度ですむということです。
2. 記事にはキーワードをつけ、本誌巻末に200字以内の解説を書く。1原稿当たり、4~5個以内とする。
3. 本誌体裁を統一する。例えば、参考文献の表記法、通巻ページ数等。
4. 海外情報、研究会報告、実験技術は、随時、編集委員の裁量で執筆を依頼する。
5. 投稿規定を作り、オリジナル論文を扱わないことを明記する。

##### 行事委員会

##### 1990年度活動計画

##### 【年会】

特別講演+一般講演(またはポスター)+シンポジウムの形式をとる事を検討しているが、より多くの発表を募る企画を検討中である。

開催時期・開催場所についても検討中である。

##### 【シンポジウム】

昨年度、第一回シンポジウムを開催したが、大変盛況だったので、今年度も秋頃の開催を検討している。

##### 【講習会・ワークショップ】

テーマとして「放射光学における真空技術」、  
 「放射光を用いた新しい分析技術」、  
 「X線領域での新しい検出器を用いた放射光利用」等を検討中である。

## 【講演会】

日程については未定だが、年度内に数件は開催したいと考えている。

## 渉外委員会

## 1990年度活動方針

1. 学術団体として各種組織（学術会議等）への登録。
2. 各国の放射光施設、および関連団体との情報交換。
3. 学術的会合等の共催、後援等。
4. その他

## 日本放射光学会1990年度予算案

自 1990年4月1日

至 1991年3月31日

## I. 収入の部

科 目	予 算	摘 要
1. 会費収入	4,560,000	正会員 6,000 (円)×740(名) = 4,440,000 (学生) 4,000 (円)× 30(名) = 120,000
2. 賛助会費収入	3,700,000	1 口 50,000 (円)× 74(口) = 3,700,000
3. 講読会費収入	225,000	1 口 15,000 (円)× 15(口) = 225,000
4. 学会誌広告料収入	4,100,000	年間契約30社、毎号平均35社掲載
5. 学会誌販売収入	300,000	その他の刊行物販売代金を含む
6. 学術的会合収入	*	年会、講習会等の参加費、広告料収入等
合 計	12,885,000+* (円)	

## II. 支出の部

科 目	予 算	摘 要
1. 学会誌出版費	7,600,000	会誌印刷費 (130頁×4回) 6,000,000 会誌編集費 400,000 原稿料 600,000 発送手数料・郵送料 600,000
2. 名簿管理費	300,000	新入会者登録、変更ラベル修正、会費集計事務等
3. 事務経費	2,381,000	事務管理費 270,000 賃借料 17,000 事務用品費 150,000 消耗品費 400,000 水道光熱費 4,000 給料手当 50,000 印刷費(封筒類、学会案内パンフ等) 600,000 税理士報酬・顧問料 560,000 振込手数料、運賃 80,000 FAX使用料 150,000
4. 通信費	1,200,000	電話料金、各会議・選挙等の通信、日常事務連絡等
5. 会議費	1,200,000	会場費 200,000 旅費交通費 1,000,000
6. 学術的会合	200,000+*	年会、講習会等
7. 予備費	104,000	
合 計	12,885,000+* (円)	

注1. \*年会、講習会等については、収支のバランスをとるものとする。